

**1 猫ヶ岩屋古墳**  
隠岐郡知夫村富内

人里離れた地にある古墳。知夫赤壁にほど近い、狭い谷にある古墳です。その場にある石も利用しながら、自然石を積んで大型の天井石をかけた横穴式石室が見えます。長さ六メートルはある、立派な石室です。人里離れた場所にある古墳ですが、地元の人によれば、今は不便だけど、昔は知夫でもっとも住みやすい環境がよい所」だそうです。



**2 神崎横穴墓群**  
隠岐郡海士町海士

保存がよい横穴墓群。海士町中心部の東にそびえる金光寺山のふもと、民家の裏に大きく口を開けています。横穴の前に急角度で箱形に造られた大きな前庭がよくわかります。前庭だけで長さ七メートルはあります。奥の部屋も規模が大きく、つくりも丁寧です。家の物置きになっているので、見るときは断わることを忘れずに。



**3 新開古墳群**  
隠岐郡海士町海士

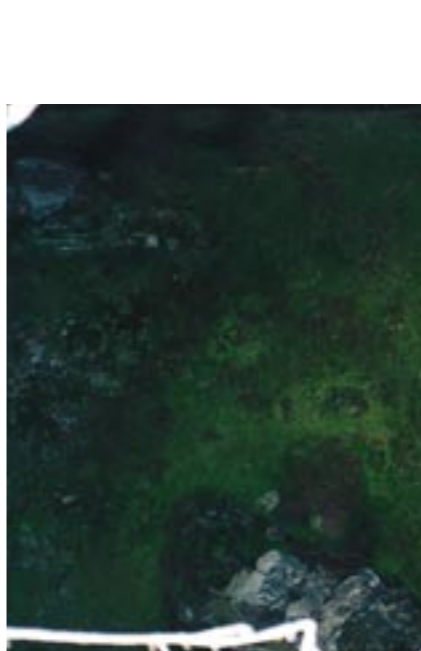
諏訪港を見おろす丘の上に築かれた古墳群で、特別養護老人ホームのすぐ隣りにあります。もとは四つの古墳が並んでいましたが、今は四号墳だけが残され整備されています。直径一〇メートルと小型ですが、浅い溝で囲まれ、その一部には通路状の土橋が付いている珍しい古墳です。



**4 御波横穴墓群**  
隠岐郡海士町御波

外海に面した御波港の斜面にある横穴墓群です。道に面した廃屋の裏側をよく見ると、穴が開いているのがわかります。下の方にある穴は、「芋ケラ」と呼ばれる穀物の貯蔵穴である可能性が高いですが、上の方にあるのは明らかに横穴墓で、少なくとも七穴はあるようです。中段あたりには、はいれそうなものもあり、のぞくと、奥行きは三メートル以上、高さも三メートル近くある、巨大な横穴墓であることがわかります。

天井は家形に加工されており、手前側は加工が粗いですが、奥側は丁寧に仕上げられています。目を近づけると、壁を削った時にできる工具痕も見えます。



**5 来居1号横穴墓**  
隠岐郡西ノ島町美田

美田湾に面した海岸沿いにある横穴墓群で、中にはいれるのは一六穴だけで、ほかの七穴は現在は道路の壁面に痕跡が認められるだけです。一六穴はきれいに整った家形の玄室を持ち、過去の調査で直刀や土器、木棺の釘などが出土しました。遺物から、七世紀ごろの築造と考えられています。入口に説明板があります。



**6 美田尻古墳**  
隠岐郡西ノ島町美田

別府港フェリー乗場のすぐ西側にある丘陵のつべんにある古墳です。西側の八幡宮から山道に登ると、こんもりとした墳丘が見えます。墳丘は径約一五メートル、二段築成で墓石も見られません。造られた当初は白くて遠くからもよく見えたはずですが、



**エリア12 隠岐島後**

島後は本土から五〇キロ以上離れていますが、島前と同様、数多くの古墳があります。有名な古社である玉若酢命神社、水若酢神社周辺は古墳が多く、前方後円墳もこの二カ所に集中しています。

なかでも平神社古墳は横穴式石室を持つ全長四八メートルの前方後円墳です。また固い岩山に掘り込まれた横穴墓が多いのも特徴で、西郷町の飯の山横穴墓群は現在大半が失われていますが、もとは五〇基以上の横穴墓があったと言われています。

島後も島前同様に数多くの古墳が造られています。地域が限定できるところが、今後調査が進めば、この二つの地域は本土より具体的な古墳時代像が明らかになると思います。



**1 平神社古墳** 県指定  
隠岐郡西郷町平

隠岐最大の前方後円墳



西郷港から五箇村へ行く道路西側にある有名な前方後円墳で、全長は四八メートルもあります。隠岐で墳輪が見つかったのはこの古墳だけといわれていますが、今は墓石らしいものしか確認できません。くびれ部付近に窪みがあり、奥と右側に石積みが見られます。これは横穴式石室の奥壁と側壁だけが残っているもので、天井石や羨道部分は失われています。石室は全体に小型の石を使用しており、この古墳の南西約一〇メートルの丘陵斜面にある平西古墳の石室に比べ、古い様相を残しています。この平西古墳は石室がよく残っており、平神社古墳の次に造られた古墳かもしれません。

**2 北方横穴墓群**  
隠岐郡五箇村北方

ベッド付きの横穴墓

五箇村役場の裏山斜面にある横穴墓群で、一八基以上あると言われています。取材で確認できたのは一二基で、いずれも岩盤に掘り込まれたものばかりです。かなり崩れたものもありますが、中には玄室が家形で、奥壁沿いに作り付けのベッドを備えるものもあります。壁の一部が赤く見えますが、彩色がどうかは確認できていません。

